香川県 Shake Out シェイクアウト

（県民いっせい地震防災行動訓練）

令和６年度実施報告書

令和６年 12 月

危機管理総局危機管理課

１　シェイクアウトについて

シェイクアウトは、地震を想定して参加者が一斉に身を守る安全確保行動を行うという訓練であり、「場所を問わない」、「時間がかからない」、「それぞれの場所に応じて実施できる」といった特徴があり、他の防災訓練よりも多くの方の参加が可能である。

我が国では平成 24 年３月に東京都千代田区で初めて実施されて以来、都道府県や市区町村のみならず、自治会などのコミュニティ単位でも実施されるなど、全国的な広がりをみせている。

本県においては、平成 25 年度から 11 月５日の「津波防災の日」に合わせて、「香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）」という名称で実施しており、今年度も、家庭、学校、職場など普段の生活場所での訓練への参加を幅広く呼びかけた結果、1,145 団体、25 万 6,912 名の参加登録があった。

２　訓練の目的

東日本大震災の後、平成 28 年４月に発生した熊本地震では連続した２度の大きな揺れにより甚大な被害が発生し、改めて「自助」の重要性が認識されたところである。

本県に甚大な被害を及ぼすと考えられる南海トラフを震源とする地震については、今後 30 年以内の発生確率が 70％～80％と高い値となっている中、自らの身の安全を守り、被害を最小化するために、次の３点を目的として県民一斉に香川県シェイクアウトを実施した。

①地域防災力の向上

訓練を通じて県民の防災リテラシー（防災に関する知識や技術を自ら学び活用する能力）の向上を図り、「自分の身の安全は自分で守る」ことの意識を身につけていただき、災害に遭っても「ケガ」をしないことを基本に、身近な人を助けるなど地域防災力の向上に貢献できる人を育成する。

②普段の生活場所での防災対策の確認

広く県民に地震から身を守る行動を一斉に実施することを呼びかけ、県民自ら身の安全を守る行動をとっていただくことによって、地震防災の必要性を改めて認識していただき、家庭、学校、職場等での防災対策を確認するきっかけとする。

③津波防災の日の周知

11 月５日の「津波防災の日」は、1854 年に発生した安政南海地震の津波の際に、稲に火を付けて暗闇の中で逃げ遅れていた人たちを高台に避難させて救った「稲むらの火」の逸話にちなみ、2011 年６月に成立した津波対策推進法で制定されたものであり、この日を県民に広く周知する。

３　訓練の日時等

（１）訓練日時

令和６年 11 月５日（火）午前 10 時

※　参加者の都合により上記の日時に実施できない場合は、日時を変更して実施

（２）訓練場所

家庭、学校、職場など、普段の生活場所で実施した。

（３）対象者

個人、団体（保育所・幼稚園・こども園、学校、企業、医療・福祉関係機関、自主防災組織）など、広く県民を対象にした。

（４）想定

南海トラフを震源とする最大規模の地震が発生したことを想定した。

（５）訓練の内容

訓練日時になったら、まず姿勢を低くし、頭を守って、その状態で揺れが収まるまで約１分間動かないという「安全確保行動１－２－３」（下図参照）を実施した。

なお、周辺に机やテーブル等の体を隠せるものがあれば、その下に隠れ、体を隠すものが無ければ、倒れそうな棚や落下しそうな照明器具、窓等のガラスなどから離れ、安全な場所を確認した上で、安全確保行動を実施した。

【安全確保行動１－２－３】

1　DROP！＝まず低く！

2　COVER！＝頭を守り！

3　HOLD ON！＝動かない！

（６）プラスワン訓練

シェイクアウトは約１分間で終了するが、より一層防災対策の向上を図るため、安全確保行動以外にも、家具の転倒防止、避難訓練の実施、危険箇所の確認など身の回りの防災対策の確認、シェイクアウト後の避難訓練、家庭や組織内における避難場所・連絡体制の確認などの防災に関する話し合い等、シェイクアウトにあわせて「プラスワン訓練」を実施するよう呼びかけた。

今年度は、地震発生直後において身を守るためにとても重要な**「家具の転倒防止」**に加え、令和６年１月１日に発生した能登半島地震において、避難所の備蓄物資不足が課題となったことから**「備蓄品の確認」**、発災時に円滑かつ迅速な避難を行えるよう**「避難所・避難経路の確認」**にも重点を置き実施を呼びかけた。

（７）訓練開始の合図

消防庁・気象庁が実施する「津波防災の日に係る緊急地震速報訓練」、ＲＮＣラジオで 11 月５日の午前 10 時に合わせて放送されたシェイクアウト訓練の放送を訓練開始の合図としたほか、今年度からは無料でダウンロード可能な訓練用音源も用意し、各自での声かけや施設内放送等の合図により、地震が発生したことを想定し訓練を実施した。

同時刻に国が実施する、Ｊアラートを活用した緊急地震速報の伝達訓練に伴い、市町によっては防災行政無線の屋外スピーカーを活用して地震速報音声を試験放送する自治体もあり、それを合図とすることも可能であった。

（８）参加登録方法

参加登録は、専用の参加登録用 Web サイトからの申込みのほか、FAX、郵送でも対応した。

４　香川県シェイクアウト実施に向けての広報活動

広く県民の皆様に参加を呼びかけるため、県、市町、商工会議所等の広報誌に記事を掲載するとともに、チラシ、ポスターを作成し、県内各自治体、学校、企業、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、自主防災組織、各種団体等に配布した。

また、テレビ（県政広報番組）、ラジオ（西日本放送、FM 高松）、新聞、ホームページ、SNS 等のマスメディアを活用し周知・広報を行った。

さらに、今年度も、インターネットポータルサイトである「Yahoo！JAPAN」と締結した協定による取組みの一環として、スマートフォンのアプリ（「Yahoo！JAPAN」及び「Yahoo！防災速報」）をインストールしている方に対し、シェイクアウトの実施に関するプッシュ通知（累計 3 回）を実施。さらに、香川県民防災意識向上プロジェクトの LINE アカウントと連動して周知を行い、どこの団体にも所属しない「個人・家族」層への周知を試みた。

このほか、「香川県防災ナビ」（防災アプリ）等の登録者に対しては、別途周知を行った。

チラシ（表）
ポスター（Ｂ２判）

チラシ（裏）

５　訓練の参加登録実績

（１）参加団体及び参加者数

1,145 団体、25 万 6,912 名

（２）参加形態

参加形態	団体数	参加人数（人）
個人・家族	７３	１４２
自主防災組織	３１	３７，９８６
高校・大学	５３	３９，８９１
専修学校・各種学校等	１７	３，８７３
特別支援学校	１２	２，３０３
小学校・中学校	２１０	７７，８７４
保育所・幼稚園・こども園	２９７	２９，９３６
医療・福祉機関	１４３	１０，５１０
企業	２１８	１７，１８８
協同組合・その他の団体	４０	１８，４９７
行政機関・公的機関	５１	１８，７１２
合　　計	１，１４５	２５６，９１２

（３）市町別参加人数

市町名	参加人数（人）
高松市	１５２，０８１
丸亀市	２４，２３０
坂出市	１２，０００
善通寺市	９，６３９
観音寺市	１０，７４５
さぬき市	７，９２９
東かがわ市	４，５０８
三豊市	１０，２８１

市町名	参加人数（人）
土庄町	１，２１１
小豆島町	１，５６８
三木町	５，５８８
直島町	３０２
宇多津町	４，３６９
綾川町	３，２７２
琴平町	１，６９０
多度津町	４，７５２
まんのう町	２，７４７

（４）プラスワン訓練の登録件数（重複回答あり）

プラスワン訓練	登録件数
家具の転倒防止	１９３
家族との連絡方法の確認	１５４
避難場所までの経路の確認	４６８
備蓄品の確認	３９５
危険箇所の確認	２４５
避難訓練	５０６
役割分担の再確認	３２５
防災に関する話し合い	２３４
自主防災組織との合同訓練	３８
小学校・中学校・高等学校との合同訓練	
医療・福祉機関との合同訓練	
その他	６７

６　訓練の様子

【香川県庁】

安全確保行動（シェイクアウト）実施中

救護訓練

職員が各役割に応じ、災害対応行動を確認
（避難誘導班）

消火器取扱訓練

※今年度は、11 月５日にシェイクアウト訓練、11 月６日に庁内防災訓練を実施した。（シェイクアウト訓練は両日とも実施）

【高松市立牟礼南小学校】

地震発生！シェイクアウト！

机の下に身を隠し、１分間動きません

防災ヘルメットを全員かぶります

運動場に避難し点呼をとります

避難する時も列はくずしません！

校長先生の講話を真剣に聞いています

7　訓練後のアンケート調査

今後のシェイクアウト訓練の参考とするために、参加者を対象にアンケート調査を行った。

（1）アンケートの調査方法

専用 Web サイトからアンケート調査を実施

（2）アンケート調査期間

令和６年 11 月５日（火）～12 月 13 日（金）

（3）アンケート調査項目

Ｑ１．　参加団体の形態について

Ｑ２．　訓練の実施場所について

Ｑ３．　この訓練の情報を知った手段について

Ｑ４．　取り組んだ訓練の内容について

Ｑ５．　今回の訓練で防災について改めて気づいたこと

Ｑ６．　今回の訓練に関する意見

Ｑ７．　次回のシェイクアウトへの参加について

（4）回答数

８２７件

8　課題と改善点

（1）参加人数・団体について

今年度「香川県シェイクアウト」への参加登録人数は、昨年度と比較すると 3,639 人増の 25 万 6,912 人となった。参加形態ごとに比較すると、保育所・幼稚園・こども園、小学校・中学校、専修・各種学校、高校・大学などの教育関係機関の参加人数が、全体の 60%余りを占めており、教育現場にシェイクアウトが定着したことが伺える。

また、今年度 200 団体が初めて参加しており、近年の災害発生状況等を踏まえ、県民の防災に対する意識が高まっているものと考えられる。

単純に参加人数のみをもって成果を評価することはできないが、訓練に参加したことによって新たな「気づき」を得て、対策を検討する動機づけになるという効果がアンケート結果からも複数確認できることから、各家庭や地域での取組みも含め、少しでも多くの方が訓練に参加できるような環境を整えていく必要がある。

（2）参加を呼びかける広報について

広く県民の皆様に参加を呼び掛けるため、報道機関（テレビ、ラジオ）や広報誌、ポスター掲示等により広報を行った結果、一定の効果はあったものの、訓練後のアンケートでは、回答者全体の７割に当たる方が職場や地域からの働きかけにより知ったことがわかる。

広報については発信するタイミング等により伝達できない場合もある一方で、スマート

フォンのアプリを活用した通知機能による事前周知は、確実に伝達できるという点で一定の効果もあることから、引き続き「香川県防災ナビ」等の防災アプリの登録を県民に呼びかけるとともに、SNS も含めた多様な媒体を併用して周知することとする。

（３）プラスワン訓練について

今年度は、地震発生直後において身を守るために重要な「家具の転倒防止」に加え、「備蓄品の確認」、「避難所・避難経路の確認」の３項目に重点を置き実施を呼びかけた結果、参加 1,145 団体中 1,056 団体から、延べ 2,625 件もの登録があった。

シェイクアウト（安全確保行動）に加えて各種の防災に関する取組みを行うことで、新たな気づきを得て訓練実施効果を高められることから、次年度以降もプラスワン訓練の意義や事例について周知するとともに、実施を呼びかけることとする。

（４）訓練開始の合図について

今年度から、参加登録サイト上に無料でダウンロード可能な音源提供を実施。併せて、ラジオでも訓練開始時には合図が流れることをホームページやチラシ等で周知していた。

近隣の施設にて鳴動するＪアラートを開始の合図としている団体も多いが、放送設備との組み合わせがしやすい無料での音源提供は多くのお問い合わせをいただくとともに、様々な団体で、訓練開始合図として活用いただいた。

（５）「香川県防災ナビ」・「Yahoo!JAPAN」及び「Yahoo!防災速報」アプリによるプッシュ通知について

スマートフォン用の防災アプリ「香川県防災ナビ」の機能を利用して、アプリ登録者のうち訓練開始時刻に津波浸水区域内に滞在している者に対し、プッシュ通知の情報配信を実施した。訓練通知を受信して速やかに避難行動に結びつけてもらうことを目的としたもので、実際に訓練通知を受信した津波浸水区域内の登録者は 5,065 人であった。

この訓練を契機に「香川県防災ナビ」の機能を幅広く知ってもらうとともに、機能を正しく理解し、受け取った情報をもとに適切に行動に移せるよう、今後も訓練に取り入れていきたい。

通常時

非常時

プッシュ通知イメージ

他方、「Yahoo!JAPAN」及び「Yahoo!防災速報」アプリによるプッシュ通知は、シェイクアウト実施までに累計で３回行ったところ、通知直後には「個人・家族」層からの参加登録が如実に増えており、ダウンロード数の多いアプリによる情報発信の訴求力が高いことがうかがえた。来年度以降も継続する予定とし、県内に広く周知するツールとして活用度を高めていくこととする。

９　おわりに

南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率が 70％～80％と高い値となっている中で、地震による被害をできる限り軽減し、県民の安全を確保するためには、まずは「自分の身の安全は自分で守る」ことが重要である。

こうした中、平成 25 年度以降継続して実施している香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）は、今年度で 12 回目を迎え、県内一斉に多くの方に参加いただき訓練を実施することができた。

訓練後のアンケートに寄せられた参加者の声からは、シェイクアウトに参加したことで様々な“気づき”を得るきっかけになったという意見も多く、地震発生時に各家庭や職場においてどのように対応すべきかを参加者自身が体験し主体的に考えることを通して、防災意識向上につながっていくものと考えられる。また教育機関等では、職員の方々が児童・生徒の考える力を引き出すような訓練を設定されている様子や、保護者・近隣住民との連係を視野に入れていた団体も確認できており、学童期から継続した防災教育は、防災意識向上に大変効果的であるとも考えられる。

来年度も、さらに多くの方々に参加していただけるよう、プラスワン訓練を含めた訓練参加を引き続き呼びかけるとともに、他の取組事例を紹介するなど、各団体の訓練がより充実したものになるように取り組んでまいりたい。

アンケート結果

Ｑ１．　参加団体の形態について

種別	回答数（件）
小学校・中学校	１９３
保育所・幼稚園・こども園	１６１
行政機関・公的機関	２２８
医療・福祉機関	９６
企業	５１
高校・大学	３０
その他の団体	１８
特別支援学校	8
自主防災組織	2
専修学校・各種学校	7
協同組合	1
個人・家族	３１
合　　計	８２６

Ｑ２．訓練の実施場所について

項目	回答数（件）
学校	２４１
職場	３９２
家庭	２５
保育所・幼稚園・こども園	１５３
外出先	6
地域の集会場	3
その他	7
計	８２７

Ｑ３．この訓練の情報を知った手段について

項目	回答数（件）
職場での案内	５７１
その他	６８
ポスター・チラシ	９７
インターネット	６７
回覧板	8
口コミ・人から聞いた	7
テレビ・ラジオ	6
合　　計	８２４

Ｑ４．取り組んだ訓練の内容について（複数回答）

項目	回答数（件）
地震時の安全確保行動（シェイクアウト訓練）を行った	７９８
避難訓練や消火訓練等を行った	２５１
家庭・職場の環境を見直した（家具固定，整理整頓等）	１９４
災害時の連絡方法を確認した	２１０
非常持出品や備蓄品の点検を行った	２２４
その他の防災の取組みを行った	１２０
延べ実施数	１，７９７

Ｑ５．次回のシェイクアウトへの参加について

項目	回答数（件）
参加したい	８０８
参加したくない	１５
無回答	４

Ｑ６．今回の訓練で防災について改めて気づいたこと（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【個人・家族】

・周囲でもシェイクアウトという言葉を耳にすることが増えてきた。災害に対する意識が上がってきたと感じがします。

・テーブルの下に避難しましたが、「怖い」と思いました。

・避難場所までの順路が狭く二階建て木造の建物が多くあり、倒壊しないか不安になったので避難ルートの再検討をするいい機会になりました。

【保育所・幼稚園・こども園】

・ICT での登園管理を行っているが、災害時に本当に機能するのかわからないため、機能しないことを前提に保育者間で話し合いを行った。

・保育者⇔保護者間でいかにスムーズに引渡しを行えるのか真剣に考えるいい機会になった。

・引渡し時に作成しているカードを昨年度から改良し、より早く作成し渡すことができるようになった。

・園児たちがふだんとは違う場所にいたとしても、保育者が慌てず、いつもどおりの安全行動を取らせることを心がけた。

・避難する場所は本当にそこでいいのか？（園児から大木や鳥居の近くは危ないのではないかと

の意見が出たため)、津波や火事が迫っている状態も想定する必要があると感じた。

・音や初めての場所に抵抗を持つ子もいるため、そのような子には事前に防災無線の音量や緊急地震即報の音を知らせるような機会を設ければ、パニックになりにくくなるのではと感じた。

・単純に訓練を毎年行うだけだと保育者も園児もマンネリ化してしまうので、近隣の園や小学校と合同で行うなど、変化を取り入れることで真剣に考える機会になると感じた。

【小学校・中学校】

・想定した状況以外の状況になっても対応できる臨機応変力が大切だと感じた。

・防災ヘルメットにも色分けを施せば、指示役が誰なのか分かり易くなるのではないかとの意見が出た。

・停電になれば校内放送も使えないため、拡声器を使用してみたが、窓が閉まっているとよく聞こえないことが課題として分かった。

・備蓄品の非常食や飲料水を児童に直接触れさせることで、防災意識が高まっていくことにもつながると感じた。

・近隣の施設の防災無線放送では十分に聞こえないことに気がつけた。

・地震から火事・停電・津波など、次の災害が起きた時にどのような避難行動をすべきか、児童と職員で真剣に考えるいい機会になった。

・停電時を想定してトランシーバーを使用してみたが、想定していた以上に通話のやりとりが難しかったため、今後は継続的に訓練を行う必要があると感じた。

・地震発生時に、学校にいない場合（遠足等で外出中)、トイレに入っていた場合、休み時間だった場合など、平時とは違う状況だった時にどのように動くべきかを、児童が主体となって考えることができていた。

【医療・福祉機関】

・福祉施設において車いすを使用している高齢者についての対策が必要であることに気がついた。

・入居者の ADL 低下が進み、安全行動をとれる人が少なかった。

・SNS を利用して非常呼集の連絡を行い、数時間後に既読状況を確認したが、半数の職員が確認できていなかった。連絡体制の見直しが必要であると感じた。

・訓練後、備蓄品の確認を行ったところ参加職員の中から実際に調理してみたいという声が上がり、近々BCP 訓練の一環として備蓄食品を使ってみることになりました。

・今年はラジオや職員の呼びかけにプラスしてスマホで地震発生時の警報音を流したところ、利用者さんにはメリハリがついた感じがしてわかりやすかったようでした。

・認知症などで災害の危険性が理解できていない方がおり、認知症利用者への対応が必要だと感じた。

・職場で訓練を行いましたが、単なるイベントのようになってしまっていたことを反省点としたいと思います。
・入浴介助中やトイレ誘導中などの場合の行動に正解が見当たらない。
・職員のほとんどが大地震を経験していない中で、「想定外」だらけになることが考えられます。施設で生活をしているご利用者の命と生活を災害から守ることができるのかと言えば自信はありません。今まで持っている「想定」を拡げ、職員一同共有していくことが、極限状態では活きてくると思うので、防災・減災など様々な取組みと共に進めていきたいです。
・ロッカーや冷蔵庫等、地震発生時に転倒の危険がある設備があった。対策を講じる。
・利用者は全員が要介護高齢者であるため、安全確保行動を取ること、認知症を患う方はその行動（座布団・クッションを頭上におくこと）を理解するのも難しい状況である。職員が身を持って、行動、援助することが非常に大切であることを再認識しました。
・認知症高齢者にとっては、実際に揺れないため実感がなく、訓練には参加してもらうも、隠れることに強く抵抗があったり、通じなかったりと、実際に地震が起こった時はもっと混乱すると思うので、注意が必要であると感じた。
・安全確保行動を取る際に、テーブルの下に頭をと思いましたが、介護施設のため、高齢者が多く、テーブルの下に避難をさせるのは難しいと気づきました。使用していた座布団を頭に被せる事で急場をしのぎましたが、本格的な対応方法を今後検討する必要があることがよくわかりました。

【企業】

・非常持ち出し品や備蓄品等の場所をキチっと把握していくために、社員移動を前提に考えた場合、定期的に本取組みを実施することの大切さを知った。
・個人用ヘルメットを用意しているが、使用期限の確認や、あご紐を合わせておくなど、すぐに被ることができるよう事前用意が必要。
・頭で考えるのと、行動するのとでは違うということがよくわかった。
・南海トラフ規模の地震が来た際、安全確保後の避難場所への移動や備品等の確認ができていないので、マニュアル化し万全に備えなければいけないと感じた。

【行政機関・公的機関】

・訓練開始後に机の下に隠れるが、日頃から整理を怠っていると、いざという時に隠れられないため、ふだんの心がけから防災行動は始まっていると改めて気づいた。
・自宅の備蓄品を見直す機会にしたところ、賞味期限が過ぎているものも多く見つかったため、ローリングストック法等を参考にして、有事に備えたいと思います。
・揺れがおさまった後にはどこに避難するのか、現実的な対応（職場内周知）する方がいい気がしました。

Ｑ７．　今回の訓練に関する意見（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【個人・家族】

・県内全体で何とかして訓練をやらなければいけないと思う。危機意識が香川県の県民は低すぎる。

・毎年参加させていただいております。
毎回安全確保行動のみなので、今後はプラスワンを検討したいと思います。

【保育所・幼稚園・こども園】

・校内の状況に応じて、県の実施日と日を替えて実施できるところがありがたい。

・毎年の訓練で、保護者も意識ができてよい。

・防災訓練のアプリが終了していたので、防災訓練放送用アプリ等活用したいです。

・今回はチラシにプラス１の見本や指導に使える資料を付けてくださっていたので助かりました。

【小学校・中学校】

・訓練とはいえ､危機感を持った訓練にする必要があると思います｡(災害時の連絡体制や避難経路の確認等を含む)

・いつ起こるか分からない災害に対する意識を持つためにも大切な訓練だと感じた。

・一斉に、訓練を行うことは、そのことをきっかけに、学校や家庭での話題となり、ひいてはそれぞれの身の安全を守ることにつながるので意義ある取組みであると考えます。

・昔から、特に学校では、揺れを感じたら机の下に潜ると教えられてきたが、近年の大規模災害の経験から、柱に囲まれた狭い場所やデルタゾーンへの避難、また、揺れを感じた短い時間での移動の必要性等が、防災士等により紹介されている。これまでの安全確保の方法でよいのか、見直しは必要ではないのか、最新の情報と実際の災害の経験者等から学ぶ機会が必要である。

・町の防災無線を聞いて訓練するのですが、音声が聞き取りにくいです。改善策はないでしょうか。

【医療・福祉機関】

・意識づけの為、県主体での取り組みを続けて頂きたいと思います。

・万が一の場合に備えて意識を高めるためにこういった訓練は必要だと感じました。

・色々な事柄を再考するきっかけにしたいと考えている。

・シェイクアウトと防火避難訓練を同時に行うことで地震と火災が連動するケースを想定した訓練ができた。

・地震速報のように、訓練を携帯の端末等からお知らせして欲しかった。

・本当は、香川県一斉の 11/5　10 時で行うことが出来たらよかったのですが、高齢者の施設ということもあり、利用者や職員の余裕のある時間へ変更させていただきました。今後も別時間での実施が可能なのであれば、継続して参加させていただきたいです。

【企業】

・前年も参加しましたが、訓練に参加した証明等があると参加する企業が増えるのではないでしょうか。

・プラスワン訓練で何を取り組むか、来年は十分に考えて行動したい。

・大がかりではあるが、避難場所までの移動等も訓練に加えてもよいと思います。

・香川県のＨＰのトップ画面や、ソーシャルメディアには、シェイクアウトのことが大きく出ていないので、香川県としても、もっと大きく紹介したほうがいいのではないかと思います。

・非常持ち出し品や備蓄品等の場所をキチっと把握していくために、社員異動を前提に考えた場合、定期的に本取組みを実施することの大切さを知った。

【行政機関・公的機関】

・昨年度より地震の放送時間が短かった。放送開始後、デスクの下に身を隠したが、数秒もしないうちに、「これでシェイクアウトは終わります」という趣旨のアナウンスが流れた。もっと時間をとってやったほうがよいと思いました。

・訓練放送が緊急地震速報の音声だけで、どこが終わり時なのかが分からず、周りもみんな終わり時に戸惑っていた。また、まったく参加する気もなく平然と仕事を続ける職員も多く、改めて香川県民の危機意識の低さを感じるとともに、一層の啓発をしていただきたいと感じた。

・地震発生時、机の中に潜り込んで身を守ることの有効性に疑問を持っている人も相当数いると思うので、そのような疑問を解消する努力を求めたい。

アンケートに御協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

香川県危機管理総局 危機管理課